

例6

マイ・ハザードマップの作成(小・高学年、中学生)

活動概要

自治体が作成している「ハザードマップ」をもとに、実際に危険箇所を確認し、地図上に再現することによって、オーダーメイドのハザードマップを作成する。

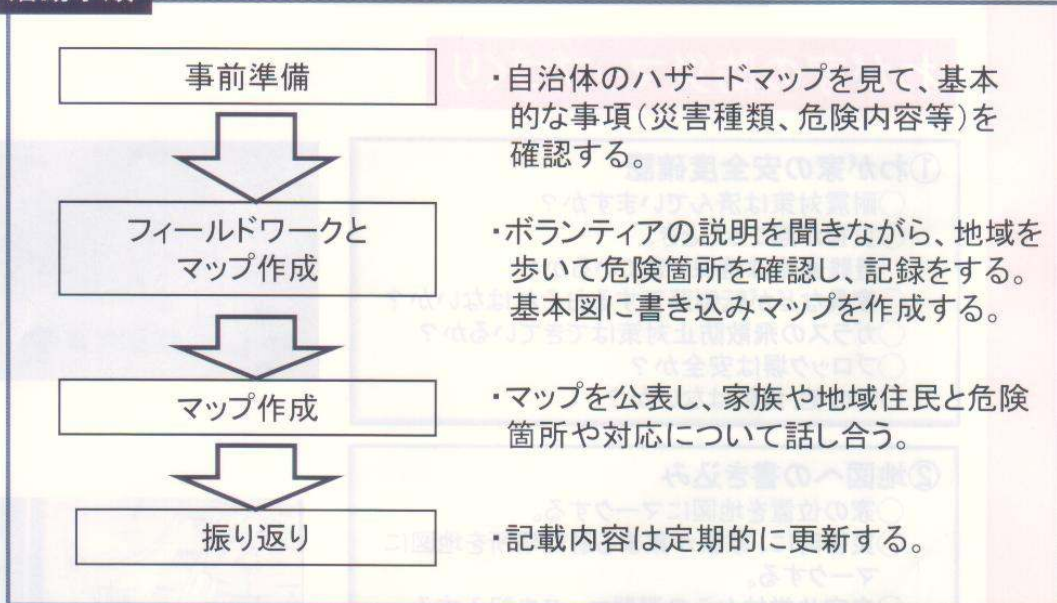
準備物

自治体が作成しているハザードマップ、地域の基本図、デジタルカメラ等

所要時間

フィールドワーク2時間、マップ作成2時間程度

活動手順



DIGに挑戦してみよう

【DIG】(ディグ)とは、Disaster(災害)、Imagination(想像力)、Game(ゲーム)の頭文字を取って名付けられた誰でも参加できる防災訓練。

自分たちが生活している地域の近くで災害などが発生した場合を想定して、参加者全員でその対応策のイメージトレーニングをするものです。

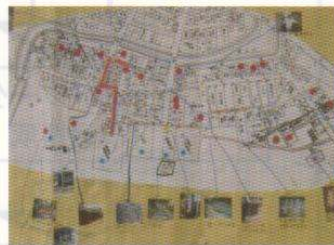
家庭DIG

- 自宅周辺の地図
- 透明ビニールシート
(地図にシートをかぶせれば、何回でも使える。)
- 油性ペン(色分けできるように8色くらい)
- 場所のマーク用シール
(ふせん紙でもよい。何種類かあるとよい)

わが家の防災マップづくり

①わが家の安全度確認

- 耐震対策は済んでいますか？
- 災害が起こったとき、避難通路は確保できているか？
- 家具などが転倒落下するおそれはないか？
- ガラスの飛散防止対策はできているか？
- ブロック塀は安全か？
- その他、危険はないか？



②地図への書き込み

- 家の位置を地図にマークする。
- 災害時に、家族が集まる避難場所を地図にマークする。
- 自宅や学校からの避難コースを記入する。
- 自宅周辺や避難コースにある
 - ・防災設備(消火器、防災倉庫など)、
 - ・危険な場所などを確認し記入。
- 災害時に持って行くものやすべきことを、家族みんなで話し合う。



※「DIG」は、小村隆史(防衛研究所主任研究官)、平野昌(三重県消防防災課)らによって考案された簡易型災害図上演習で「参加型地域版図上演習」と呼ばれることもある。

地域DIG

- 自宅周辺の地図
- 透明ビニールシート
(地図にシートをかぶせれば、何回でも使える。)
- 油性ペン(色分けできるように8色くらい)
- 場所のマーク用シール
(ふせん紙でもよい。何種類かあるとよい)

①被害状況の確認

- 今の状況を想定し、参加者にイメージさせる。
(例)南海地震発生 M8.0 震度6強～7
 - ・自分や家族は無事。
 - ・室内は家具などが倒れ散乱。
 - ・使える電話は携帯衆電話のみ。
 - ・電気、ガス、水道はすべてストップ。
 - ・火災の発生も予想される。
 - ・△△は家が倒壊していて通行不可。



②地図への書き込み

- 鉄道、幹線道路、河川、防災施設、被害が予想される場所などを地図に書き込む。
- 被害状況をもとに、そこから推定されることを地図に書き込みます。各自が思いついたことを、どんどん地図にメモしていく。



③話し合い(課題検討)

- 書き込まれた地図を見ながら、起こりうる被害やその対応策について全員で話し合う。
(例)近所の壊れた家の中から助けをを求める声。
 - ・どんな行動をとるか？
 - ・そのために必要なものは何か？
 - ・問題点は何か？
 - ・日ごろからできることは何か？



④成果発表

- 話し合ったことを紙に書き出し、作成した地図とともにグループごとに発表を行います。
- ほかのグループが自分たちと違う発表を行ったときは、そのように行動した理由を考える。

⑤講評

- アドバイザー的立場の方に、話し合いのようすや発表の内容などについてコメントいただく。

例7

防災探検オリエンテーリング (全)

活動概要

生活圏の避難場所や防災役立つ場所をチェックポイントにしたオリエンテーリングを行い、発災時に身を守る場所を確認する。

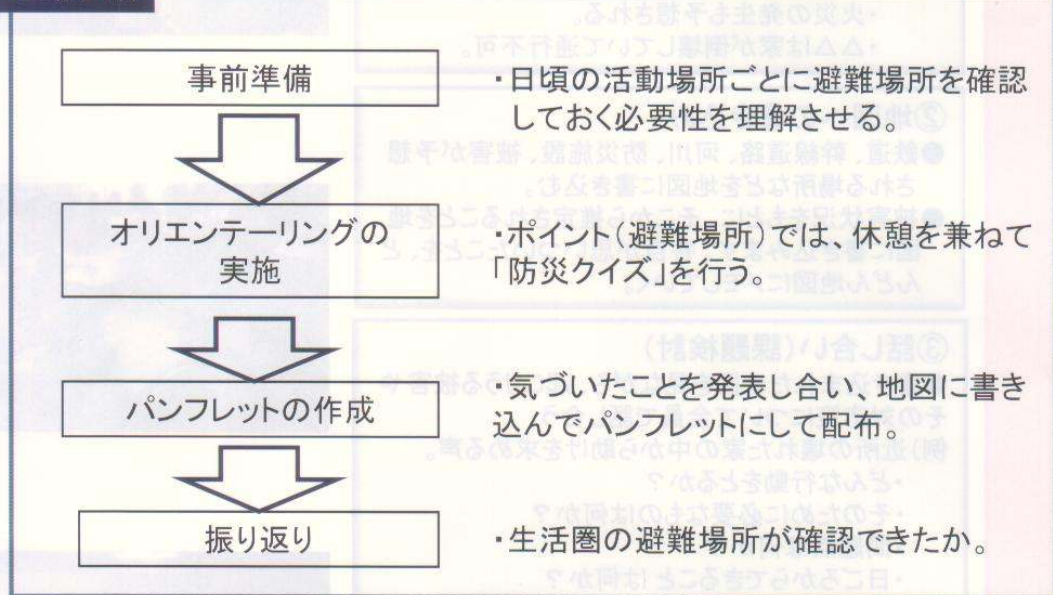
準備物

地図、ゼッケン、筆記用具等

所要時間

2～3時間程度(実施地域の広さや避難所の数によって異なる)

活動手順



※保護者や被災体験者と一緒に行ったり、ポイントで防災の話を伺うとより効果的。



オリエンテーリングのポイントとなる場所

1. 地域の災害に関する史跡

2. 避難施設

3. 防災に役立つ施設

- ①官公庁(消防署・警察署・病院・保健所など)
- ②地域の公共施設(公民館・集会所・学校・公園など)
- ③電話ボックス・公衆電話
- ④防災倉庫
- ⑤消火栓・防火水槽
- ⑥災害対応型自動販売機
- ⑦コンビニ、ホームセンター など

4. 災害時に危険な場所

- ①海岸・川・池などの水辺
- ②がけや急斜面
- ③ブロック塀や自動販売機
- ④狭い道路
- ⑤歩道橋
- ⑥看板 など



記念碑



津波避難タワー



災害時対応自動販売機

例8

防災(減災)運動会(全)

活動概要

運動会で防災資機材を使った競技を行い、これらの使い方に慣れる。

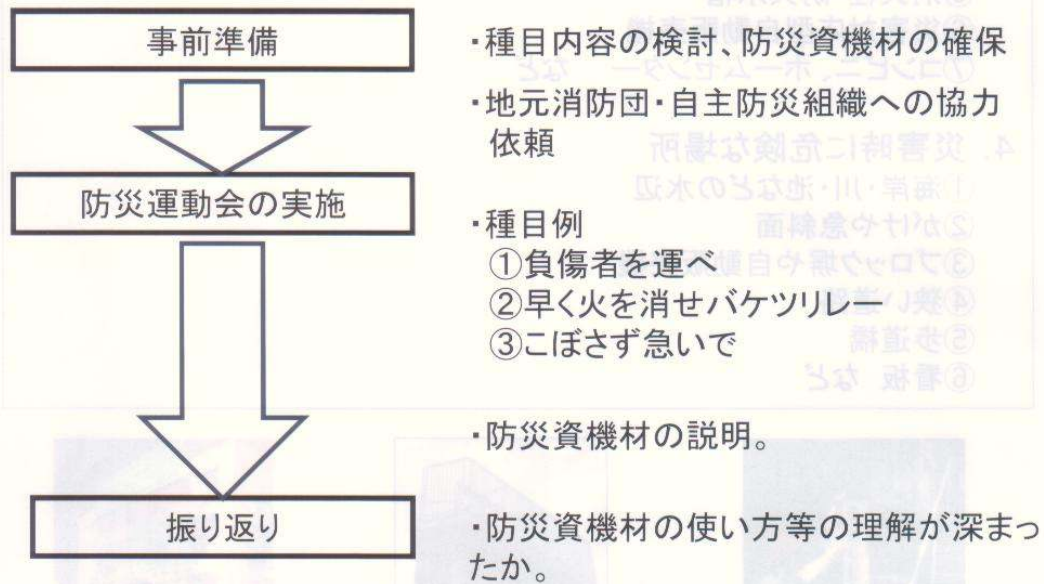
準備物

防災資機材(一輪車、砂袋、バケツ、担架など)

所要時間

1種目10～15分程度

活動手順



※競技のあと、使用した防災資機材の説明や使い方の説明を5分程度行う。



■ 防災〇×クイズ

準備物: 「〇」と「×」エリアの表示、区切るロープ
「〇」「×」プラカード、

競技内容:

- ① 災害について出題された問題に「〇」か「×」かで答え、該当の場所へ移動する。
- ② 正解は残り、不正解は座席へ戻る。
- ③ 何問か行い、「残った数×5点」を得点とする。



■ 対決バケツリレー

準備物: 水源、バケツ

競技内容:

- ① 水が入ったバケツを運ぶ列と空になったバケツを運ぶ列に分かれる。
- ② バケツリレーで水を貯める競争をする。
- ③ 水の入ったバケツを運ぶ列と空になったバケツを運ぶ列を交代して2回戦を行う。

指導のポイント

- ・バケツに入れる水の量は6割程度が効果的。
- ・バケツを渡すときはかけ声をかけるとよい。

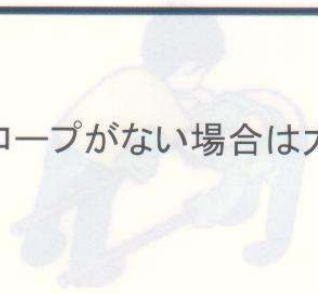


■ ロープ結びリレー

準備物: ロープ(約5mのロープを5人に1本。ロープがない場合は太めの荷造り用ひもで代用する)

競技内容:

- ① スタート地点から走り、「ロープ結び位置」でロープ結びを行い、次のグループと交代する。
- ② 早く結んだ方の勝ち(伸ばしてほどけたのは失格)。
- ③ 「本結び」「もやい結び」など走者によって結びかたを指定してもよい。



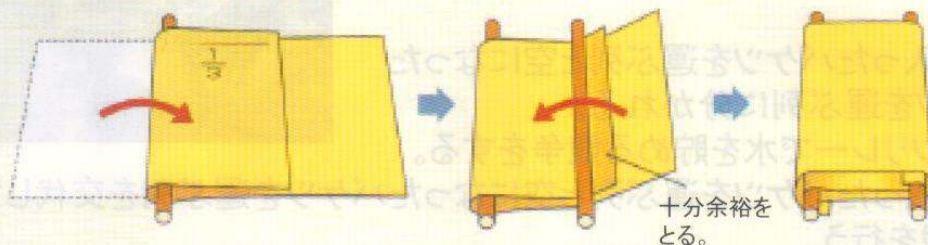
■簡易担架リレー

準備物:毛布、竹の棒、訓練用人形または水を入れた2リットルのペットボトル数本

競技内容:

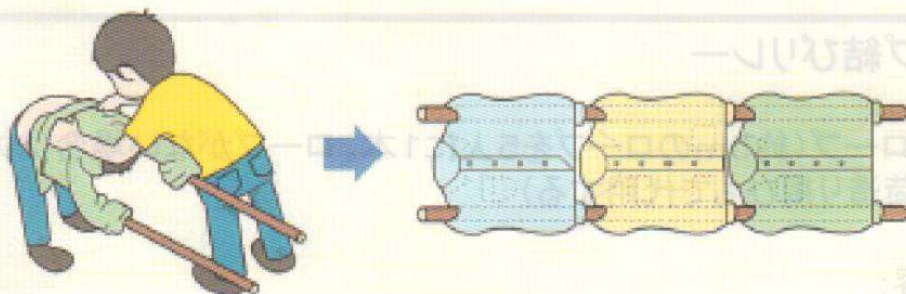
- ①毛布担架を作成する。
 - ②担架に訓練用人形(砂袋)を乗せて運ぶ。
 - ③途中でハードルなどの障害物を設けておく。
 - ④運び方が悪いグループはやり直す。
 - ・持ち上げたり、降ろしたりするときは衝撃がないようにしているか。
 - ・運ばれる人(人形)は足側から運んでいるか。
 - ・頭が少し高くなる状態を保って運んでいるか。
- ※担架に乗せる人形(ペットボトル)が軽すぎると、摩擦力が弱くすべってしまうことがある。

毛布の1/3のところ棒を置いて、毛布を折り返して作ります。



※古着を使って簡易担架をつくる方法もある。

図のように、2本の棒に上着(5着以上)を通します。



例9

防災参観日(全)

活動概要

参観日に保護者・地域の方と一緒に「防災」をテーマにした授業や活動を行う。

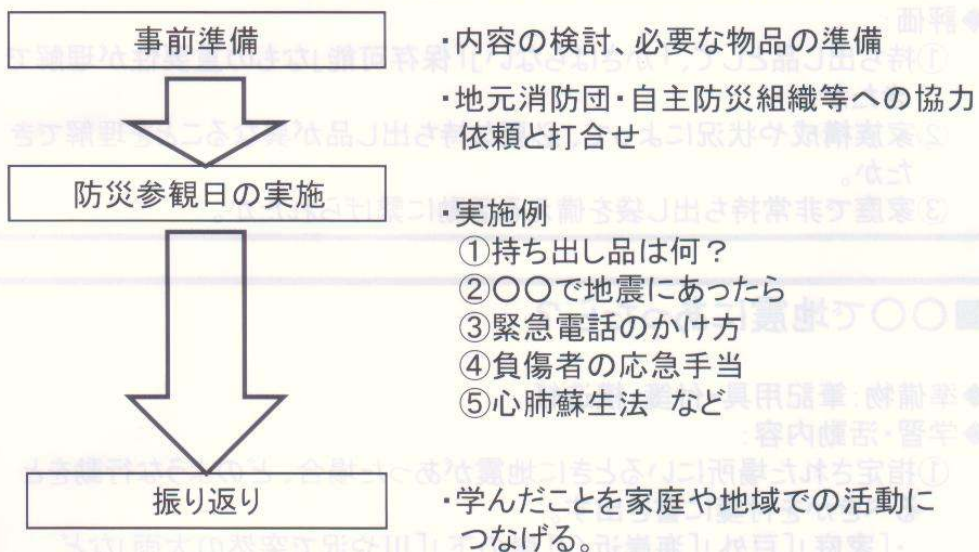
準備物

内容に応じて

所要時間

45～50分程度

活動手順



■持ち出し品は何？

◆準備物：非常持ち出し品（ネームプレートつき）12種類
懐中電灯・携帯ラジオ・非常食・ヘルメット・衣類・マッチやローソク
水・救急セット・ティッシュペーパー（ウェットティッシュ）・軍手など

◆学習・活動内容：

- ①並べられた非常持ち出し品の名前を1分間で覚える。
- ②一つずつ提示し、名前を答える。
- ③正解の数を競う（チーム対抗だと盛り上がる）。
- ④持ち出し品の必要性や使用方法を確認する。
- ⑤これ以外の持ち出し品について、保護者と一緒に考える。

◆評価：

- ①持ち出し品として、「かさばらない」「保存可能」なものの重要性が理解できたか。
- ②家族構成や状況によって、必要な持ち出し品が異なることを理解できたか。
- ③家庭で非常持ち出し袋を備える活動に繋がられたか。

■〇〇で地震にあったら？

◆準備物：筆記用具・付箋・模造紙

◆学習・活動内容：

- ①指定された場所にいるときに地震があった場合、どのような行動をとるべきかを付箋に書き出す。
・「家庭」「戸外」「海岸近く」「崖の下」「川や沢で突然の大雨」など
- ②グループで行動を話し合い、模造紙にまとめる。
- ③結果を発表し、他のグループや保護者・地域の方の結果を聞く。
- ④他のグループや保護者・地域の方と一緒に考える。

◆評価：

- ①状況に応じた行動の仕方が理解できたか。
- ②保護者や地域の方の体験談を聞き、イメージを膨らませられたか。
- ③家庭で非常時の対応を話し合う活動に繋がられたか。

■「クロスロード」

◆準備物：問題文、「YES」「NO」の札

◆学習・活動内容：

- ①進行役が問題を読み上げる。
- ②全員が自分の意見を決める。(設問に対し、YESかNOか)
- ③進行役の合図で一斉に「YES」か「NO」かの札を上げる。
- ④多数派だった意見に上げた人は「1ポイント」もらう。
- ⑤自分の判断やグループの結果を記録する。
- ⑥次の問題に進み繰り返す。(10問)
- ⑦正解はないので、なぜそのように考えたのかについて、グループで意見交換をし、結果を発表する。

◆評価：

- ①災害対応を自らの問題として考え、また、様々な意見や価値観を共有することができたか。
- ②災害が起こる前から考えておくことが重要であることに気づくことができたか。
- ③家庭で非常時の対応を話し合う活動に繋がられたか。

<問題例>

- ①あなたは避難所運営員。避難所に300人の方が避難しています。そこに100個のおにぎりが配給されました。このおにぎりを配りますか。
- ②あなたは避難所運営員。避難所業務に絶対必要な書類が倒壊寸前の建物の中に。立ち入り禁止の建物に取りに行きますか。
- ③あなたは消防隊員。1カ所の消火を終え、命令により次の消火場所へ移動しようとしたら、「あそこの火を消してくれ。人が取り残されている。」との依頼が。この依頼を受けますか。

※「クロスロード」は、矢守克也（京都大学防災研究所助教授）氏、吉川肇子（慶應義塾大学商学部助教授）氏、網代剛（ゲームデザイナー）氏が開発した防災啓発ゲームです。「クロスロード」とは、「重大な分かれ道」、「人生の岐路」のことであり、災害発生時に迫られた難しい状況にどう判断するかを通して、災害時の判断能力、対応能力をつけるものです。

■「HUG」(ハグ) H:避難所(hinanzyo)、U:運営(uneil)、G:ゲーム(game)

◆準備物:避難者の事情を書いたカード250枚、付箋、筆記用具

◆グループ:1チーム4名程度(読み上げ係を除く)

◆学習・活動内容:

- ①カード読み上げ係を決める。
- ②スペースに、「体育館」、「敷地図」、「間取図」、「教室」用紙を置く。
- ③カード読み上げ係がゲームの設定条件を説明する。
(震度、気象条件、季節、時間、被災状況、避難者の様子)
- ④カードの1番から15番までを読み上げてスペースに出す。プレイヤーは体育館にどのように配置するかを相談する。
 - ・カードは、1世帯分をまとめて読みあげ、プレイヤーに渡す。
 - ・カード1枚につき1.5m×2.0mで、面積が3平方メートルとする。これが、避難者1人あたりの必要面積。
 - ・15番までの中に、「誰ともなく受付を作ろうと言った。」というイベントカードが1枚入っている。このカードの場合は、受付の場所を決めようという意味ですから、敷地図、体育館または間取図のどこかに「受付」と記入する。
- ⑤以後、次々とカードを読み上げ、配置していく。
 - ・カードを読みあげるときは、プレイヤーが前のカードを配置し終わる前に次のカードを読みあげ、プレイヤーに余裕を与えない(実災害のときは、避難者は待ってくれない)。
- ⑥カード配置後に、意見交換の時間を設ける(基本は30分程度)。
 - ・用意したメモ用紙(付箋)を全員に配付し、次の質問を記入する。
『私たちのグループでは、〇〇は△△だから、××しました。他のグループではどうしましたか?』
例)私たちのグループでは、盲導犬は、人と同じように扱うべきだと思ったので、家族といっしょに1年2組に入ってもらいました。他のグループでは、どうしましたか?
・記入したメモ用紙(付箋)から1つ選んで発表し、その質問に対して他のグループから意見を求める。この質問を何回か繰り返して、他のグループとの比較検討を行う。

101 世帯番号【11】
北田宮21462【北田宮8班】

やまだ
山田さん

【男50歳】全壊

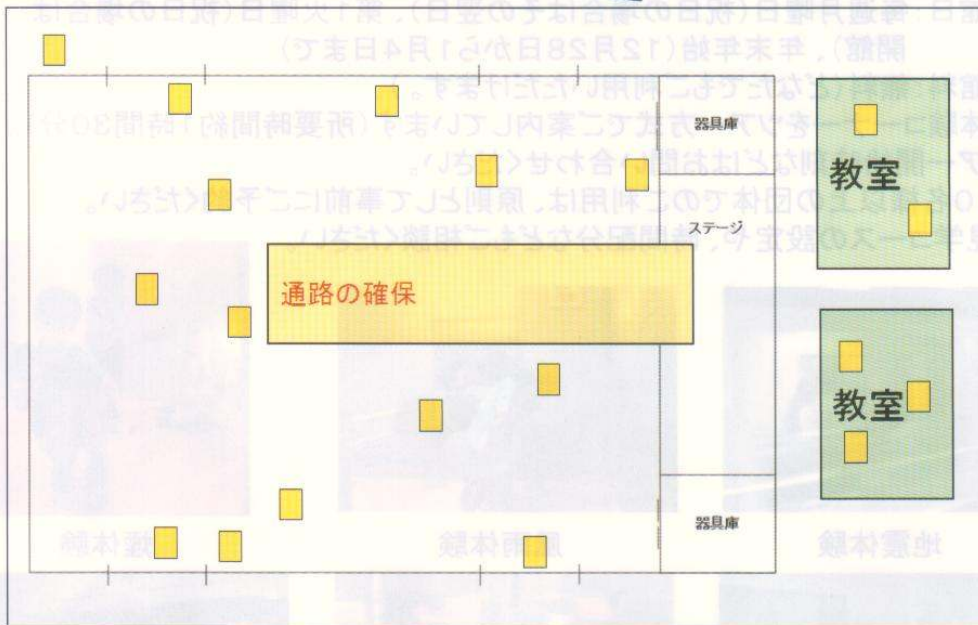
父、世帯主、妻

世帯主の父は心臓病あり。
妻はうつ病。

カード

避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が記入されている。

- 避難所に見立てた平面図に適切に配置する。
- 避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験する。



※避難所「HUG」は、静岡県が開発した防災ゲームです。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。「HUG」は英語で「抱きしめる」という意味でもあります。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられています。

非常料出さ品示

VR体験資料

消防資料

徳島県立防災センター

〒771-0204
 徳島県板野郡北島町鯛浜字大西165
 TEL 088-683-2000
 FAX 088-683-2002
 E-Mail: bousaice@mail.pref.tokushima.lg.jp



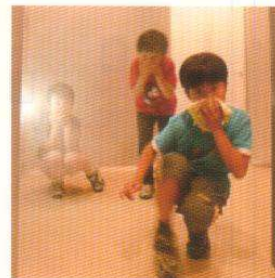
- 開館時間: 午前9時から午後5時まで
- 休館日: 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、第1火曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12月28日から1月4日まで)
- 入館料: 無料(どなたでもご利用いただけます。)
- 各体験コーナーをツアー方式でご案内しています(所要時間約1時間30分)。ツアー開始時刻などはお問い合わせください。
 - ・10名様以上の団体でのご利用は、原則として事前にご予約ください。
 - ・見学コースの設定や、時間配分などもご相談ください。



地震体験



風雨体験



煙体験



消火体験



VR避難体験



非常持ち出し品展示

徳島県立南部防災館

〒775-0101

徳島県海部郡海陽町浅川字西福良43

TEL 0884-73-2211

FAX 0884-73-4575

E-Mail sdpp@town.kaiyo.lg.jp



○開館時間:午前9時から午後5時まで

○休館日:毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)、第1火曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12月28日から1月4日まで)

○入館料:無料(どなたでもご利用いただけます。)

○体験コーナー、展示コーナーなど。

徳島県立海陽町立図書館 職員 徳島県立海陽町立図書館

〒770-8270 徳島市西町1-1
TEL:088-821-3186 FAX:088-821-3173
E-mail: tsukuketsukouka@net.cokushima.lg.jp

発行:平成23年3月



防災教育推進モデル校（校名は指定当時）

平成21年度（3校）

小松島市坂野中学校
小松島市坂野小学校
小松島市和田島小学校

平成20年度（3校）

牟岐町立牟岐中学校
牟岐町立牟岐小学校
牟岐町立河内小学校

平成19年度（6校）

徳島県立城北高等学校
徳島市城西中学校
海陽町立浅川小学校

徳島県立阿南養護学校ひわさ分校
徳島市千松小学校
つるぎ町立半田小学校

平成18年度（6校）

徳島県立海部高等学校
鳴門市鳴門第一中学校
鳴門市撫養小学校

徳島県立国府養護学校
つるぎ町立半田中学校
那賀町立木頭小学校

平成17年度（6校）

徳島県立盲学校
徳島県立ひのみね養護学校
由岐町立由岐中学校

徳島県立聾学校
徳島県立海南・海部高等学校
阿南市立橘小学校



編集：徳島県教育委員会 体育健康課

〒770-8570 徳島市万代町1-1

TEL:088-621-3166 FAX:088-621-3173

E-mail: taiikukenkouka@pref.tokushima.lg.jp

発行：平成23年3月